

地域キャンパス校について

1 地域キャンパス校について

- ・地理的状况等から再編が困難であり、かつ、地元からの進学率が高い場合は、地域キャンパス校化を図る（指針より）
- ・第1学年1学級の高校から順次導入（指針より）
- ・地域キャンパス校の教育環境の維持向上を図るため、同一の通学区域内にある4～8学級の高校を地域キャンパス校と連携するセンター校として指定
- ・センター校と地域キャンパス校とが協議をしながら、センター校から教員を定期的に派遣して出張授業を行うことを中心とした取組を行う
- ・現在地域キャンパス校16校（普通科校13校、商業科校3校）（来年度さらに1校）
- ・地域キャンパス校の教育活動を支援するため、センター校から遠隔授業などを実施（指針より）

2 地域キャンパス校とセンター校との連携 【資料7を参照】

(1) 授業に関する連携

ア 出張授業

- 両校の連携の中核
- 原則として、センター校の教員が地域キャンパス校に出向き、授業を実施することを基本
- 授業は週8時間程度
- 教科・科目は連携委員会において検討・決定
- 教科・科目の例

学校	科目	科目数	単位数
A校	現代文、数学Ⅰ、数学Ⅱ	3	8
B校	音楽Ⅰ、家庭基礎、ビジネス実務、商業技術	4	8
C校	国語総合、国語表現Ⅰ、国語表現Ⅱ、数学Ⅰ、数学Ⅱ	5	8
D校	数学A、英語Ⅱ、課題研究	3	8
E校	国語表現Ⅰ、数学Ⅰ、英語Ⅰ	3	8

※このほかの学校では、地理歴史や公民、理科、情報、美術Ⅰ、保健なども実施

○出張授業のメリット

- ・家庭や情報、美術、商業など、地域キャンパス校に当該教科の教員がない場合に、専門性の高い授業を実施することができること
- ・数学や英語など、出張授業によって、地域キャンパス校の教員と連携した少人数指導が可能となること
- ・地理歴史や公民、理科などの出張授業を行うことで、地域キャンパス校の選択科目を多くして充実させることができること
- ・教科の専門教員が来ることで、質の高い授業を実施することができ、書く力や読む力が向上すること
- ・出張授業者を含めた教科の研修やミーティングを行うことにより、授業改善が図られ効果的な学習指導を実施することができること
- ・センター校の経験豊かな教員による指導により、地域キャンパス校の教員の指導力向上に寄与していること
- ・商業科目の出張授業や放課後講習の実施により、検定受検者の増加や合格率の向上が見られること

イ 遠隔授業

- 天候悪化などの場合の、出張授業の補完的な役割を担うもの
- 地域キャンパス校・センター校に設置する通信システムを使用
- 双方向にリアルタイムで映像や音声のやりとりが可能（映像・音声とも非常に鮮明）
- 生徒は大型ディスプレイなどで授業を受ける
- カメラ操作がリモコンによって容易にできる（相手校のカメラも含めて）
- センター校からパソコンの画面を直接送信することも可能
- 昨年更新したため、円滑に使用できるよう校内研修会を全校で順次開催
- 遠隔授業のメリット

- ・天候悪化などにより出張授業ができない場合に対応可能
- ・生徒も興味・関心をもって授業に取り組む

- 通信システムの遠隔授業以外の活用も図られている（後述）

(2) 授業以外の連携

ア 生徒に関わる連携

- 生徒会役員の交流
- 部活動の合同練習、練習試合
- 両校の吹奏楽部による合同演奏会
- 合同販売実習
- メリット

- ・両校生徒のよきパートナー同士としての切磋琢磨の機会
- ・両校の生徒の学習等の意欲への向上
- ・部活動の大会参加が可能に
- ・学校祭などの生徒会行事の活性化

イ 教職員に関わる連携

- 合同の校内研修会を一方の学校で実施、
- 合同の校内研修会を通信システムを利用して、2会場で同時開催
- 通信システムで定期的に成績に関する連絡会議を開催
- メリット

- ・情報交換の推進により、互いの実践を自分の学校の教育活動に取り入れることが可能
- ・通信システムを利用して互いの授業を見ることが可能
- ・業務の円滑化や派遣教員の移動などに係る負担軽減

ウ その他の連携

(7) 通信システムの活用

- センター校など、他校の講演会などの視聴が可能
- 生徒同士の会議なども利用が可能
- 教職員の合同校内研修会を2会場で同時開催（再掲）
- 両校の教員が互いの授業を見ることが可能（再掲）
- 教員が定期的に成績に関する連絡会議を開催（再掲）
- 学校説明会において、中学生対象に模擬授業を実施することで、興味・関心を高める

(4) その他

- 小規模校単独での開催が難しい「芸術鑑賞」や「進路説明会」の合同実施
- センター校による大学進学希望者に対する進路相談
- センター校からの進路に関する情報提供

(3) 課題

○課題の例

- ・時間割が固定していることから、急な授業変更等への対応が難しいこと
- ・双方のスケジュール等の調整が難しいこと
- ・連携、交流が固定的となっており、更なる推進が必要なこと
- ・全ての教員が通信システムを体得するための研修の持ち方

○課題解決に向けて

- ・通信システムに関する校内研修会の実施 など
- ・成果や課題を、全ての地域キャンパス校・センター校が一堂に会する全道会議において情報交換し、課題解決に向けた方策を協議
- ・今後とも教育環境の維持向上のため取り組む所存